

国立西洋美術館ってどんな建物？



©国立西洋美術館

国立西洋美術館 昭和34 (1959) 年完成 設計者：ル・コルビュジエ

- 「松方コレクション」の寄贈返還を通じて、戦後の日本とフランスの文化交流の象徴となった建物です。
- 東アジアで唯一のル・コルビュジエ作品であり、ピロティ、スロープ、屋上庭園、モデュロールなど、ル・コルビュジエの建築的な特徴がよく表現されています。
- 「無限発展美術館」の構想がよく示されている美術館です。

国立西洋美術館ができるまで

1910～20年代にかけて、当時、川崎造船所社長であった松方幸次郎は、ヨーロッパ各地で絵画・彫刻等の美術作品を収集しました。これらは「松方コレクション」と呼ばれています。

第二次世界大戦後、一時フランス政府の所有となった松方コレクションは、1953年、新しい美術館をつくることを条件に日本へ返還されることとなりました。

しかし、戦後間もない日本は予算不足でした。結局、不足分は画壇や財界を巻き込んだ募金でまかなうことになりました。当時のお金で1億円が集まったと言われており、いかに人々の期待が大きかったかわかります。

美術館の設計には、世界的な建築家ル・コルビュジエが選ばれました。ル・コルビュジエは、1955年11月に日本を訪問し、上野公園内の建設予定地を調査しました。ル・コルビュジエがつくった設計図をもとに、彼の弟子である前川國男、坂倉準三、吉阪隆正の3人が協力して美術館の建設を進めました。

そして1959年3月に美術館は完成し、同年6月10日に開館しました。

松方幸次郎と「松方コレクション」

「松方コレクション」を築いた松方幸次郎(1865-1950)は、明治の元勳で総理大臣も務めた松方正義の三男です。1896年、株式会社川崎造船所の初代社長に就任し、海運業で巨額の財を得ました。

松方幸次郎が美術品の収集を始めたのは、第一次世界大戦中のロンドン滞在時のことです。大戦により造船で莫大な利益を上げた松方は、1916年から約10年間でたびたびヨーロッパを訪れては画廊に足を運び、絵画、彫刻から家具やタペストリーまで膨大な数の美術品を買い集めました。ロダンの彫刻作品、モネやルノワールなどの絵画など、彼が手に入れた作品の総数は1万点に及ぶと言われます。

彼が美術に情熱を傾けたのは、自分の趣味のためではなく、日本に美術館をつくり、若い画家たちに本物の西洋美術をみせてあげたいという気概からでした。



株式会社川崎造船所(現川崎重工業(株))
初代社長 松方幸次郎
写真提供：川崎重工業株式会社



クロード・モネ 《睡蓮》
1916年 油彩、カンヴァス
松方コレクション



オーギュスト・ロダンの《考える人》
1881-82年 プロンズ
松方コレクション

松方が収集し、ヨーロッパに残されていた美術品のうち、ロンドンの倉庫にあった作品群は火災で失われ、現在ではその内容や数さえも確かではありません。

一方、パリに残された約400点の作品は、ロダンの一角に保管されていました。これらの作品は第二次世界大戦後、フランスの国有財産となります。この作品群の寄贈・返還を通じ、国立西洋美術館が誕生することになるのです。

国立西洋美術館の見どころ

国立西洋美術館には、ル・コルビュジエの建築のアイデアがたくさんちりばめられています。



ピロティ

美術館の入口部分、建物を柱で持ち上げて地上部分にできる吹き抜け空間です。雨や強い日差しを避けるとともに、建物内外の流動性を増します。ここに彫刻を展示していたこともありました。



2階展示室

2階展示室は、角を曲がると同じような景色がまた現れる不思議な空間です。2階展示室の天井は高い部分と低い部分が組み合わされています。低い天井はモデュロールで定められた226cmで、高い天井はその2倍にバルコニーの床の厚さを加えた寸法です。



独立柱／柱と柱の間隔

この建物は多くの円柱で支えられています。柱は姫小松の木の型枠にコンクリートを流し込んで作っているため、木目が美しく浮き出しています。柱の中心から中心までの長さは、モデュロールで定められています。



19世紀ホール

本館の中央に位置するホールです。ここが出発点となります。天井部分はトップライト(三角形にあげられた明り取りの窓)があり、自然光を取り入れることができます。19世紀ホールと2階展示室を結んでいるのはスロープ(斜路)です。空間の変化を楽しみながら移動することができます。



中3階

2階展示室から見上げると、円状に配置された照明ギャラリーと中3階が見えます。幅の狭い階段を上がると、小さな作品を展示するためのスペースがあります。現在は使われていません。

本写真提供：国立西洋美術館



ACCESS



※周辺の駐車場の数に限りがあるため、来館の際には公共交通機関をご利用ください。

国立西洋美術館

〒110-0007
東京都台東区上野公園7-7

- JR上野駅(公園口)下車
徒歩1分
- 京成電鉄京成上野駅下車
徒歩7分
- 東京メトロ銀座線、日比谷線 上野駅下車
徒歩8分
- 台東区循環バス「東西めぐりん」
2・22番停留所「上野駅・上野公園」
徒歩1分

編集・発行 平成28年7月 台東区世界遺産登録推進室

〒110-8615 東京都台東区東上野4-5-6 TEL 03(5246)1111(代) FAX 03(5246)1147

ホームページ <http://www.city.taito.lg.jp/sekaiisan/>



ホームページ二次元コード
(スマートフォン対応)



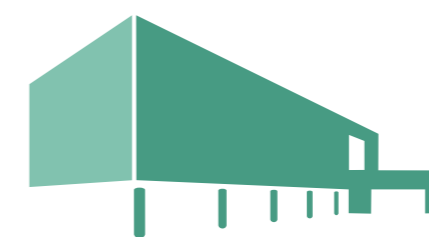
写真提供：国立西洋美術館

WORLD
HERITAGE
—世界遺産 上野に誕生—

東京初の世界文化遺産

国立西洋美術館

The National Museum of Western Art, Tokyo



2016年7月 国立西洋美術館を構成資産を含む「ル・コルビュジエの建築作品—近代建築運動への顕著な貢献—」が世界文化遺産に登録されました



世界文化遺産 「ル・コルビュジエの建築作品 – 近代建築運動への顕著な貢献 –」

(原文:L'Œuvre architecturale de Le Corbusier –Une contribution exceptionnelle au Mouvement Moderne–〈仏語〉)
The Architectural Work of Le Corbusier –An Outstanding Contribution to the Modern Movement–〈英語〉)

構成資産 7カ国17資産

フランス(10資産)



日本(1資産)



ドイツ(1資産)



スイス(2資産)



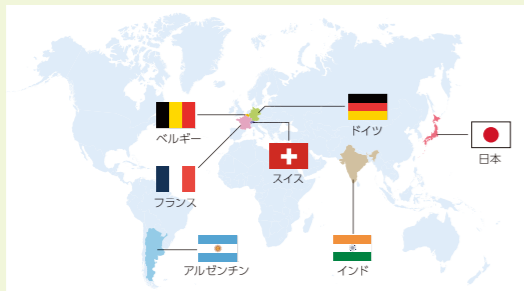
ベルギー(1資産)



アルゼンチン(1資産)



インド(1資産)



ル・コルビュジエってどんな人?



ル・コルビュジエ(Le Corbusier) 1887–1965

本名: シャルル・エドゥアール・ジャンヌレ
 ※「ル・コルビュジエ」という名前は、雑誌「エスプリ・ヌーヴォー」の中で用いたペンネーム
 ・スイスのラ・ショー＝ド＝フォン生まれ
 ル・コルビュジエは、時計職人である父親の家業を継ぐため、美術学校で彫刻や彫金を学びました。在学中、先生であるシャルル・レプラトニエから建築を学ぶことをすすめられ、建築家としての一歩を踏み出します。
 その後スイスからパリに拠点を移し、世界中で活躍しました。
 (のちにフランス国籍取得)

- 20世紀を代表する近代建築の巨匠の一人。
- 「ドミノシステム」、「近代建築の5原則」、「モデュロール」、「無限発展美術館」などの新しいアイデアを提案し、20世紀以降の建築やデザインに大きな影響を与えました。
- 世界各地に約70の建築作品があります。
- 建築分野以外にも、絵画、版画、彫刻などの芸術作品の制作をはじめ、インテリアのデザインや執筆活動などにも取り組み、小住宅から国連ビルの原案まで幅広い創作活動を展開しました。

ル・コルビュジエの建築を知るためのキーワード

モデュロール

建物の寸法を決めるルールで、黄金比と身体のサイズを利用してつくった定規(基本寸法)です。
 たとえば、人(183cmのヨーロッパの男性)が手をのばした高さ(226cm)を住宅の天井にちょうどよい高さで決めました。このようにして部屋、家具の大きさなども「モデュロール」で決めています。

無限発展美術館

ピロティから建物の中心に入り外側に向かって螺旋状に順路をとり、作品の増加に伴い展示スペースを追加して無限に発展することができるなど、ル・コルビュジエの様々なアイデアがちりばめられたもの。国立西洋美術館(本館)はこのアイデアを基に建てられました。
 この構想は国立西洋美術館の他に、インドのアーメダバード美術館、チャンディガール美術館で試みられています。
 「無限成長美術館」と訳すこともあります。



近代建築の5原則

ル・コルビュジエは近代建築を成り立たせるための5つの要点を提案しました。

- 1. ピロティ**
建物を柱で持ち上げて地上部分にできる吹き抜けの空間です。雨や強い日差しを避けるとともに、建物内外の流動性を増します。
- 2. 屋上庭園**
勾配屋根ではなく、水平な屋上にする事で、植物を植えたり、日光浴を楽しんだりして、都会でも自然を感じることができます。
- 3. 自由な平面**
壁でなく柱で建物を支え、空間を仕切る壁を別に設けることによって自由な部屋をつくることができます。
- 4. 横長の窓(水平連続窓)**
柱や壁にじゃまされずに幅広く窓をあけて、光を部屋のすみずみにまでとり入れることができます。
- 5. 自由な正面(ファサード)**
建物を壁のかわりに柱で支えることによって自由にデザインできるようになった壁面の事です。

「ル・コルビュジエの建築作品」 世界遺産として認められた価値

1920年代初頭から1960年代半ばにかけて設計・建設された「ル・コルビュジエの建築作品」は、半世紀にわたる「近代建築運動(※)」の歴史を証明するものです。世界各地に存在し、国境を超えた一連の資産は、20世紀の建築に大きな影響を与えました。

建築によるアイデア(思想)の具現化

ル・コルビュジエの作品は、20世紀という新しい時代の精神や社会、あるいは生活上のニーズに対する先駆的な回答でした。

ル・コルビュジエの建築が全世界に与えた大きな影響力

ル・コルビュジエの作品は、新しい建築に対する考え方や価値観を世界中に広めました。
 ※ 19世紀以前の様式建築を批判し、近代社会の現実に合った建築をつくらうとする運動。

登録までの道のり

平成19年(2007年)	9月	フランスから日本政府へ共同推薦の依頼 日本政府が、国立西洋美術館(本館)を「世界遺産暫定一覧表」へ記載
	12月	国立西洋美術館(本館)を国の重要文化財(建造物)に指定
平成20年(2008年)	1月	日本政府が、「ル・コルビュジエの建築と都市計画」の世界遺産への推薦を決定
	2月	関係国を代表して、フランス政府がユネスコ世界遺産センターへ推薦書「ル・コルビュジエの建築と都市計画」を提出
	10月	イコモス(※)による現地調査
平成21年(2009年)	5月	イコモス(※)から「記載延期」とする勧告
	6月	第33回世界遺産委員会(スペイン)で審議→「情報照会」とする決議
平成23年(2011年)	2月	関係国を代表して、フランス政府がユネスコ世界遺産センターへ「ル・コルビュジエの建築作品-近代建築運動への顕著な貢献-」として追加情報を提出(推薦書のタイトルの変更、構成資産の見直し等を行った)
	5月	イコモスから「不記載」とする勧告
	6月	第35回世界遺産委員会(フランス)で再審議→「記載延期」とする決議
平成26年(2014年)	9月	関係国を代表して、フランス政府がユネスコ世界遺産センターへ推薦書(暫定版)「ル・コルビュジエの建築作品-近代建築運動への顕著な貢献-」を提出
平成27年(2015年)	1月	日本政府が、「ル・コルビュジエの建築作品-近代建築運動への顕著な貢献-」の推薦を決定
	8月	関係国を代表して、フランス政府がユネスコ世界遺産センターへ推薦書(正式版)「ル・コルビュジエの建築作品-近代建築運動への顕著な貢献-」を提出
平成28年(2016年)	5月	イコモスによる現地調査
	7月	イコモスから「記載」とする勧告 第40回世界遺産委員会(トルコ)で審議→「記載」とする決議

※イコモス(ICOMOS):国際記念物遺跡会議。世界遺産委員会の文化遺産に関する諮問機関。

世界遺産とは

世界遺産とは、世界の人類全員の宝物として大切に守っていく必要のある、貴重な文化財や自然のこと。これを国際社会が協力して守り、次世代に伝えるための決まりが1972年にユネスコの総会で採択された「世界遺産条約(世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約)」です。

★世界遺産の分類

世界遺産には3つの種類があります。

文化遺産 建物や遺跡、城、寺院、古墳など	自然遺産 地形や風景、貴重な動植物の生息地など	複合遺産 自然遺産と文化遺産の両方の価値をもつもの
--------------------------------	-----------------------------------	-------------------------------------

ユネスコ(UNESCO)とは

国際連合教育科学文化機関。教育、科学及び文化などの活動を通じて、世界平和を実現するために作られた国際機関。



世界遺産委員会の決議区分

区分	内容
1 登録(記載)	世界遺産一覧表(リスト)に登録(記載)するもの。
2 情報照会	追加情報の提出を求めた上で次回以降に再審議するもの。
3 記載延期	より綿密な調査や推薦書の本質的な改定が必要なもの。推薦書の再提出後、再度、諮問機関の審査を受ける必要がある。
4 不記載	世界遺産一覧表(リスト)への登録(記載)にふさわしくないもの。当該物件の登録を再度推薦することは、例外的な場合を除き、認められない。